

事業計画名： 高精細3次元VRによる映像制作事業

事業概要： 本事業は、16K高解像度によるイマーシブ（没入型）映像制作を主軸とし、観光・エンタメ・メモリアルムービー制作など、体験価値が重要視される領域に向けて、高品質な映像ソリューションを提供することを目的とする。

本事業で導入しているの機械装置等の名称

1. Blackmagic URSA Cine Immersive 2台

Apple社の高解像度VRゴーグル（Apple vision pro）に対応した初の商用カメラ、16Kの画質性能を持つ

2. Vario5 ATABIL G3 シンバルリグ・ベスト（EasyLock付き）（撮影器具）

3. Ronin 2 Professionalコンボ（撮影器具）

4. Mac Studio Z1CE（高性能パソコン）



Blackmagic URSA Cine Immersive

Vario5 ATABIL G3

Ronin 2 Professional

Mac Studio Z1CE

5. SONY VENICE Extension System Mini
×2台



VENICEを2台使用する事で3D VR映像に初めてのボケ間と光ケーブルの利用により細かな場所でも映像可能となる



様々なApple Immersive Video コンテンツが登場

事業の革新性・差別化

2. 市場背景と課題

（1）市場背景

Appleイマーシブビデオのコンテンツ誕生とApple以外の会社も制作を可能にしたBlackmagic URSA Cine Immersiveの誕生により海外市場は一気に活性化している。一方で日本のイマーシブビデオ制作はまだ始まったばかりである。

（2）市場の課題（今までの課題）

高解像度（8K以上）の制作技術がなかった→16Kシネマカメラの台頭により解決された

高解像度を再現できるデバイス（VRゴーグルがなかった）→Apple Vision Proの誕生により解決された
16Kレベルのワークフローを設計できる制作会社が不足 →弊社はワンストップで対応可能

撮影・編集環境の構築コストが高い →編集ソフトのアップデートとハイスペックのパソコンの台頭のより解決

1. サービスの革新性

超高解像度である16K映像は、人間の視野分解能に非常に近く「そこに実物がある」ような圧倒的な実在感

を実現します。

2. 技術とサービス設計における優位性

技術面では、Apple Vision Pro対応の専用機材URSA Cine Immersive（8Kステレオ3D・90fps 16ストップ）を使用し、空間の質感・奥行き・光表現を高精度で記録。編集にはDaVinci Resolve Immersive Editionを用い、空間映像と立体音響による高度な感情表現が可能となる。

また当社は以下の点で優位性を持っている。

(1)16K収録対応のカメラ設備を自社で2台保有

来年では超高額なSONYのシネマカメラを2台所有し、最新のイマーシブビデオ制作が実現できる

(2)特殊な編集環境（GPUクラスタ、超高速ストレージ）を整備

表示機器とコンテンツ・ソリューションの相乗効果で大幅な拡大が期待されるAR（拡張現実）／VR（仮想現実）関連市場調査

VR、空間ビデオの今後の展望

メガネ型 ゴーグル型

没入感型エンタメ演出

没入型ウェディング ～感動を超えた新たな体験～

echno × Canon

ラルテクノは映像制作を掛けました

↓

すでに3Dカメラのことは圧倒的な没入映像をご提供させてもらって体験するへ

国	2024年予測	2025年予測
日本	5,000億円	6,000億円
米国	10,000億円	12,000億円
中国	15,000億円	18,000億円

国	2024年予測	2025年予測
日本	100億円	120億円
米国	200億円	250億円
中国	300億円	350億円

国	2024年予測	2025年予測
日本	100億円	120億円
米国	200億円	250億円
中国	300億円	350億円

国	2024年予測	2025年予測
日本	100億円	120億円
米国	200億円	250億円
中国	300億円	350億円

株式会社エヌエスエム 調査より

映像は『観るから体験するへ』

セントラルテクノは新たな映像体験をご提供します

16K 3Dカメラがもたらす意味

16K 3Dカメラがもたらすことは観る方がもう一度あの時間にタイムスリップした感動を味わえます。まるでその場に自分がいる感覚となりその場の空間を感じる事が出来ます。

圧倒的な没入感を感じる事はその場のリアルな空間を感じ、感動を感じる事が出来るということです。それは淀橋教会様が大切にされて来た事を人がリアルに体感して頂く機会となる事は間違いございません。



 CentralTechno